

2016年11月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度をみると、太平洋中部～ヨーロッパで波列パターンが卓越した。北米や大西洋中部で明瞭な正偏差となり、カラ海付近ではブロッキング高気圧が発達した。西シベリア～太平洋の中緯度帯では負偏差が明瞭だった。偏西風は、中国西部～太平洋の中緯度帯で強く、極域で弱かった。帯状平均した東西風は、両半球ともに高緯度帯で東風偏差となり、特に成層圏で顕著だった。帯状平均した気温は、対流圏で概ね正偏差で、両半球の極域で顕著だった。

熱帯の対流活動は、インド洋東部～フィリピンの南東海上、太平洋の北緯10～15度付近、カリブ海付近、北大西洋熱帯域の東部で活発、太平洋赤道域の日付変更線付近～東部で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、太平洋～大西洋～インド洋を東進した。対流圏下層では、太平洋中部では高気圧性循環偏差が南北半球対でみられ、南シナ海～日本付近では高気圧性循環偏差となった。対流圏上層では、北太平洋中部で高気圧性循環偏差がみられ、そこからヨーロッパ西部にかけて波列パターンが明瞭となった。南方振動指数は0.0だった。

世界の天候

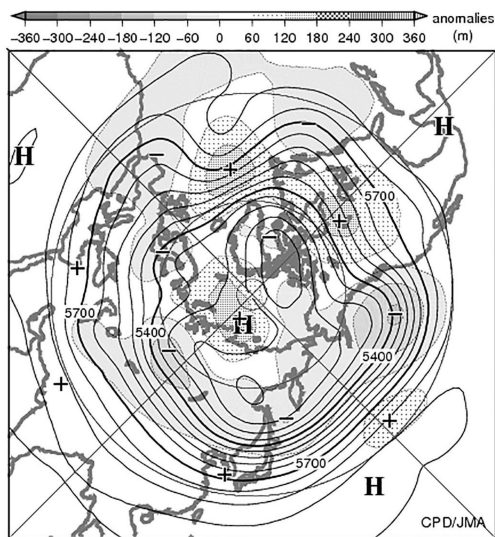
2016年11月の世界の月平均気温偏差は+0.28℃（速報値）で、1891年の統計開始以来、3番目に高い値となった。11月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.71℃/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

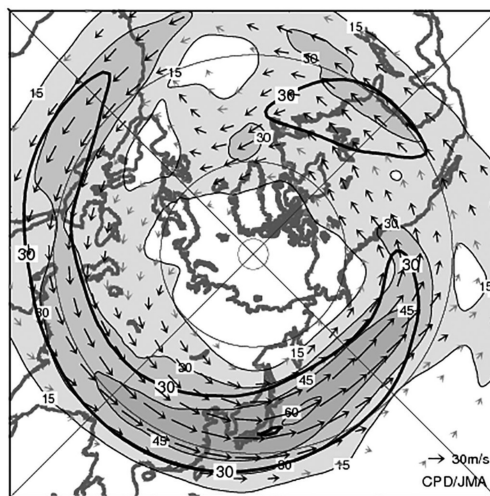
- シベリア北部～グリーンランド東部で異常高温となった。
- 北海道地方～モンゴル東部、中国北西部～西シベリア南部で異常低温となった。
- 中国北東部～カザフスタン東部で異常多雨となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

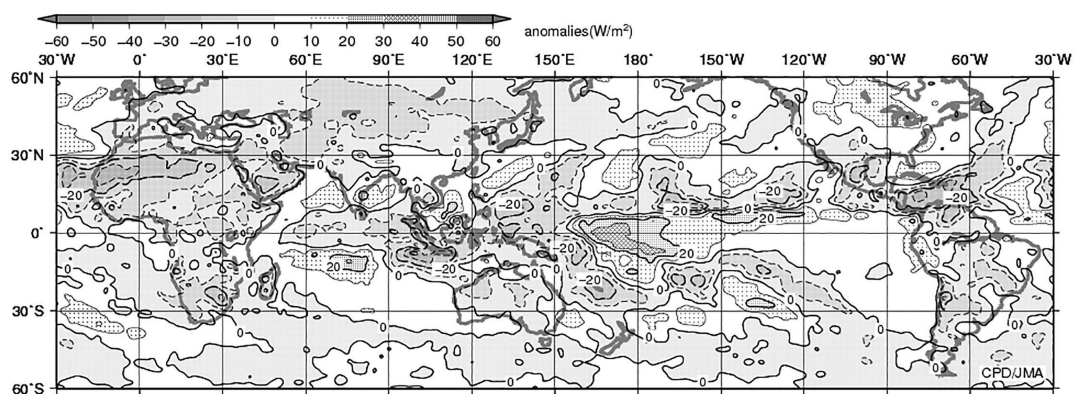
※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



2016年11月の北半球月平均 500 hPa 高度及び年偏差
 等値線間隔は60 m。陰影は年偏差。年偏差は1981～2010年の平均値。

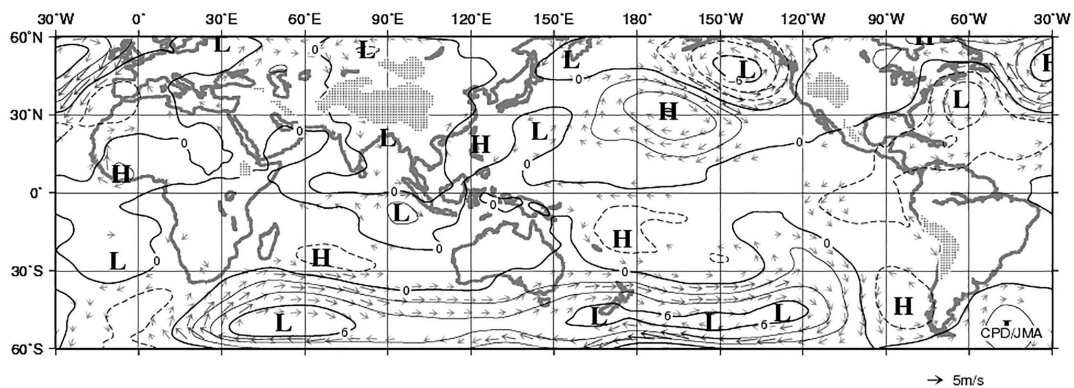


2016年11月の北半球月平均 200 hPa 風速及び風ベクトル
 等値線間隔は15 m/s。太実線は年偏差の風速で等値線間隔は30 m/s。年偏差は1981～2010年の平均値。



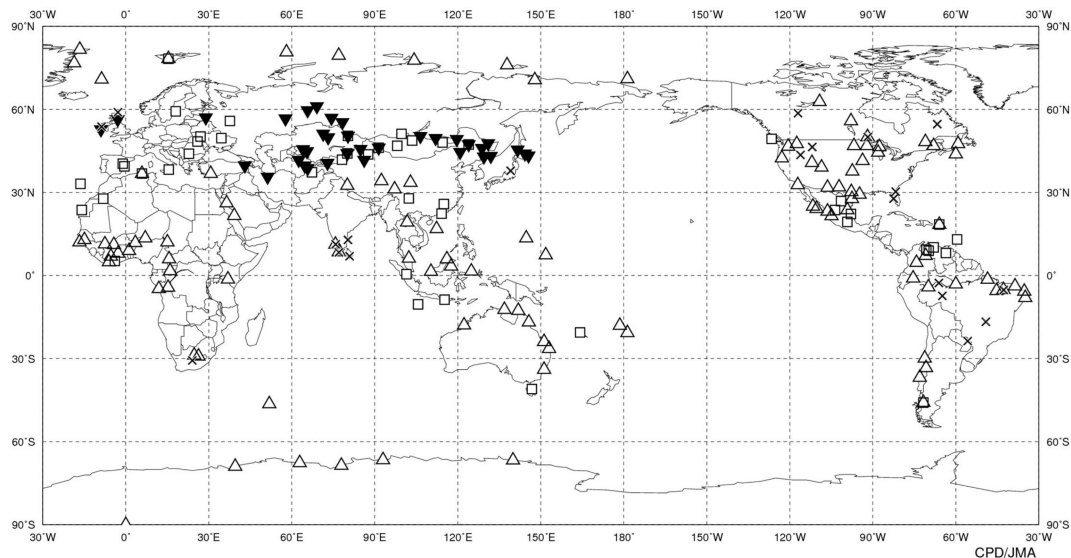
2016年11月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981～2010年の平均値。



2016年11月の月平均 850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981～2010年の平均値。



2016年11月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨

異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。